贈る言葉

経営学部長　行川　一郎

今年度、お二人の教授が定年で経営学部を去られることになった。齋藤誠毅教授、田端光永教授の先生方である。

齋藤先生は平成元年（1989年）４月に本学に英語の専任教員として就任された。最終講義で自らの英語教員として歩んだ道程をお話しになったが、終始一貫、厳しい中にも暖かみと思いやりに満ちた講義を重ねてきたことはつとに知られている。学生には心のこもった言葉をかけ、叱咤激励し、あるときは諫めるというように、彼ら彼女らとの意思疎通を日々の教育の現場で実践してきたことは、私たち、後に続くものに与えるところ大きなものがある。全学的にも国際交流センター所長として役職（1997．9～1999．3）をつとめられ、大学に多大な寄与を果たされている。

田畑先生は平成８年（1996年）４月に本学国際経営学部国際コミュニケーション・コースを支えるべく赴任された。先生には(株)東京放送において長い間にわたって活躍をされ要職を重ねられた蓄積を、広く平塚キャンパスの学生にご披露いただいた。異文化を語っていただくことで国際人をめざす若者に強い刺激を与え続けたことは想像に難くない。特に、世界の進路に今日大きな影響を及ぼすところとなっている中国についての豊富な専門知識、経験に裏打ちされた潤沢な話題を学生に対して講義していただいたことは価値あるところである。また、学内においては評議員（2003～2005）をつとめられて学務的にも寄与されている。

先生方はこの春をもって当学部の専任教授を終えられるが、齋藤誠毅先生は学外において(財)語学教育研究所所長を続けられ、社会に資する活動を重ねられていく。田畑先生も同じく学外において専門誌（「軍縮問題資料」）の編集主幹として精力的な活動を続け、報道界での貢献を一層大きなものとしていくのである。

お二人の先生とも教育者、研究者としての学生への影響は実に大きなものがあったが、私たち教員にも公私にわたるおつきあいの中で日々有益な示唆を賜るとともに、強い影響を与えるところが大きい存在であった。ここにお二人の人物としての大きさを心をこめてお伝えするとともに、経営学部を代表して感謝の言葉を申し述べたい。

齋藤誠毅先生、田畑光永先生、神奈川大学経営学部のために長い間にわたり御尽力を賜り本当に有難うございました。先生方の益々の御活躍と御発展を衷心よりお祈り申し上げます。